



非認知能力の育成をめざした幼児教育の経験と 学童期の自尊心、認知能力の関連

☆松平泉, 高野裕治, 朝岡陽香, 山口涼, 大久保咲帆, 片岡洋樹, 壹岐ひかり, 品田貴光, 瀧靖之
☆東北大学スマート・エイジング学際重点研究センター

●認知能力と非認知能力

認知能力

知識, 思考, 経験を獲得する能力

非認知能力

”長期目標の達成” “他者との協働” “感情を管理する能力”の3つの側面に関する
思考・感情・行動のパターン。

高い非認知能力が高い認知能力を予測すると考えられていることから、
幼児期から非認知能力を育む教育的介入に関心が寄せられている

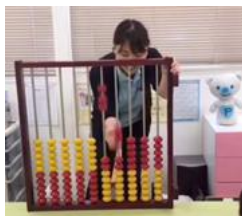
●幼児教室コペル (株式会社コペルの中核事業)



多種多様な教で知的好奇心を刺激するとともに、子どもを積極的にほめる教育によって、
認知能力と非認知能力の同時育成を実践 (画像は同社webサイトより引用)



フラッシュカード



巨大そろばん



オリジナルソングで知識習得

本研究の目的

非認知能力の育成を重視した幼児教育が実際に子どもの発達の何に関与するか、
その効果について示唆を得るために、コペルで学んでいる児童と同年齢の対照群の
認知能力, 非認知能力を比較する。

●対象 | 小学校低学年の児童61名

コペル群35名 | 男児22名, 女児13名; 平均7.13±0.99歳

対照群26名 | 男児10名, 女児17名; 平均7.60±0.96歳

●認知能力の評価

WISC-IV知能検査 | 全検査IQ, 言語理解指標, 処理速度指標, ワーキングメモリ指標, を算出

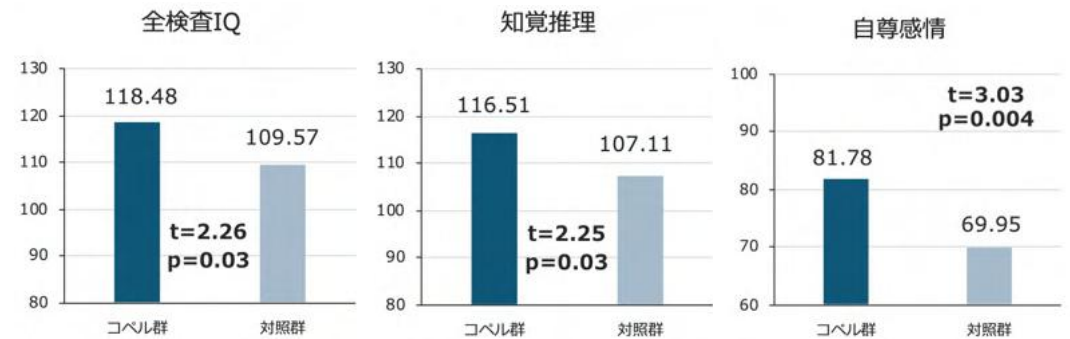
●非認知能力の評価(保護者回答)

子どもの強さと困難さアンケート(Moriwaki & Kamio, 2014) 「向社会性」因子

小・中学生版QOL尺度(柴田ら, 2014) 「自尊心」因子

●統計解析

ウェルチのt検定(多重比較補正により, 認知能力は $p < 0.01$, 非認知能力は $p < 0.025$ を閾値とした)



非認知能力の育成を重視した幼児教育を経験している児童は、
同年齢の他の児童よりも高い知覚推理能力と自尊心を示すことが明らかとなった。

- 子どものQOL尺度の自尊心は自己効力感も含まれる. 可変性の高い非認知能力は自己効力感 (Gutman&Schoon, 2013)という先行知見に一致.
- 認知能力と非認知能力の相関は有意でなかった→さらに年齢が進んでからの検討が必要.